

第4次 飯田市立図書館サービス計画

計画期間 2021（令和3）年度～2024（令和6）年度

飯田市

中央図書館

目 次

第1章 飯田市立図書館サービス計画の策定について	1
I. 計画策定の趣旨	
II. 計画の位置づけ	
III. 計画期間	
第2章 飯田市立図書館サービス計画の成果と課題	2
第3章 飯田市立図書館サービス計画の基本方針	4
第4章 第4次飯田市立図書館サービス計画の具体的な取組	4
I. 図書・資料・情報提供を充実させます	4
II. 子どもの読書活動を推進します	7
III. 身近に使える図書館の充実を図ります	9
IV. 学び合いにより人と人がつながり、 読書が広がる場づくりに取り組みます	10
V. 地域の歴史と文化の記録を蓄積し、提供します	11
VI. 安全で安心して使える施設を整えます	12
第4次飯田市立図書館サービス計画 取組別指標および目標値	13
第4次飯田市立図書館サービス計画 体系図	

第1章 飯田市立図書館サービス計画の策定について

I 計画策定の趣旨

飯田市立図書館では、「だれでも・どこでも・どんなことでも利用できる市民の図書館」を基本方針に、貸出・予約・レファレンスに力を入れ、また蓄積してきた資料を活かした学びの機会を提供することで、市民の読書や研究活動を支援し、人間形成や自己確立の場であるとともに地域を支える情報拠点となることを目指してサービスの提供を行ってきました。

平成16年「公立図書館の任務と目標」改訂や、平成18年「これからの図書館像―地域を支える情報拠点を目指して―（報告）」、平成20年図書館法改正及び平成24年「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」改正等の国の動向や、図書館を取り巻く状況の変化を踏まえ、飯田市では平成19年度～23年度を計画期間とする「(第1次) 飯田市立図書館サービス計画」、平成24年度～28年度を計画期間とする「(第2次) 飯田市立図書館サービス計画」、平成29年度～令和2年度を計画期間とする「(第3次) サービス計画」により、図書館サービスの向上に取り組んできました。

今後も社会状況の変化や、ICT（情報通信技術）等による情報の多様化、リニア中央新幹線の開通等による地域の変容など、様々な変貌が予想されるなかで、将来を見据えながら、図書館としての役割を果たしていく必要があります。

そこで、現在の計画が終了を迎えるにあたり、現行の計画で目標とした図書館サービスの達成状況等の振り返りを行うとともに、図書館利用者や地域のニーズに基づきサービスの充実を図るため、今後の飯田市立図書館のあり方やサービスの充実の方策について「第4次飯田市立図書館サービス計画」を策定します。

II 計画の位置づけ

「飯田市立図書館サービス計画（以下「本計画」という。）」は、「いいだ未来デザイン2028（飯田市総合計画）」と教育分野計画でもある「第2次飯田市教育振興基本計画」を上位計画とし、後者の社会教育機関別計画として位置付けられるものです。

本計画は、今後の本市における市立図書館のあり方や方向性を整理し、図書館サービスを充実するために策定するものです。

いいだ未来デザイン2028（飯田市総合計画）

↓↑

第2次飯田市教育振興基本計画

飯田市立図書館サービス計画

Ⅲ 計画期間

本計画は、令和3（2021）年度から令和6（2024）年度までの4年間の計画期間とします。この計画期間は、「いいだ未来デザイン2028」及び「第2次教育振興基本計画」のアクションプログラムと同一の計画期間として設定しています。

なお、本計画は、上位計画と連動し、PDCA（計画・実行・評価・改善の業務のサイクル）による進行管理を行うとともに必要に応じて見直しを行います。

計画期間を図に示すと以下のとおりとなります。

いいだ未来デザイン2028 / キャッチフレーズ、未来ビジョン（目指すまちの姿）、人口ビジョン、基本的方向、戦略計画 (リニア開通後の2028年(R10)を見据えた12年の計画)

第2次飯田市教育振興基本計画		
前期（4年間） H29（2017）～R2（2020）	中期（4年間） R3（2021）～R6（2024）	後期（4年間） R7（2025）～R10（2028）

第3次飯田市立図書館サービス計画 H29（2017）～R2（2020）	第4次飯田市立図書館サービス計画 R3（2021）～R6（2024）	第5次飯田市立図書館サービス計画【予定】 R7（2025）～R10（2028）
---	--	---

第2章 飯田市立図書館サービス計画の成果と課題

飯田市立図書館では、市民があらゆる種類の知識や情報を入手できる機関として、求められる本や資料への要望には、貸出やレファレンス（調査相談）等により徹底して応えるという姿勢でサービスを行ってきました。開館以来蓄積してきた郷土資料は全国に誇る飯田市の財産となり、市民や研究者に提供し続けています。また子どもの心の成長に読書は欠くべからざるものとして子どもへのサービスにも力を入れてきました。市内全域に配置している分館での地域に密着した読書推進は、飯田市の図書館サービスの大きな特徴となっています。

社会や図書館を取り巻く状況が変化する中、期間を定めてサービス計画を策定し、社会や地域の状況を鑑みた取組を行ってきました。第1次図書館サービス計画（平成19年～23年）では、開館時間の延長や定住自立圏形成協定による南信州図書館ネットワークの構築により利便性が向上し、図書予約数も飛躍的に伸びました。また仕事に役立つ社会、経済、産業関連の実用書等の充実、地域の課題を取り上げた講座の開催など、ビジネス支援サービスへの取り組みを始め、新たな利用者を増やしてきました。

第2次図書館サービス計画（平成24年～平成28年）においては、「暮らしと仕事と地域に役立つ図書館」、「本と人が出会い、学びが広がる図書館」を基本方針に定め、郷土新聞・雑誌等のデジタル化とデータベース化により閲覧が増加し、図書館分館、美術博物館、歴史研究所の蔵書を図書館システムに搭載したことで各館の蔵書が有効に利用されるようになるなどの成果がありました。また市民と協働した講座開催や資料展示等により、学びの機会の提供にも重点的に取り組み参加者が増えました。しかしながら利用統計をみると、のべ利用者数は1年間でおよそ21万人であるものの利用登録者数は飯田市民全体の2割強であり、多くの市民が図書館を利用していない実態がありました。年代別の利用分析では、50代以上の利用は増加していましたが、子どもを含め40代までの利用が減少傾向にありました。また市民へのアンケート結果では、生活が忙しいため来館できない方が多いこと、蔵書の充実が求められていること、レファレンスや情報提供機能について知らない方が多いこと、高齢者の読書環境整備への要望が多いことなどがわかりました。

第3次サービス計画では、これらの課題を受けて、市内全域で誰もが利用しやすい図書館、資料提供の充実、年代に応じた読書活動推進を目指して取り組みました。

分館の予約推進により分館受け取り予約数が飛躍的に増加しましたが、全市の利用登録者数は減少傾向にあり、図書館を利用される方とされない方の差がさらに開いていることが懸念されます。図書館は読みたい本を得られる場所であるとともに、生活や仕事上の様々な課題を解決するために必要な情報を得られる場であるという認識を高め、利用していただくための取組が必要です。また、ホームページの更新により、郷土情報の発信や図書館の貴重資料の検索がしやすくなるなど利便性が向上したことや、ボランティアや市民団体との協働により読書支援や学びの機会を提供し、参加者が拡大したなどの成果はありましたが、郷土資料の利用減少や地域の読書会の減少など、大切にしてきた地域の学びや継続して行われてきた活動が減少してきていることは大きな課題です。また高校生から40歳代までの図書館利用が少ない現状があり、若い世代の利用促進は継続的な課題となっています。

令和2年には新型コロナウイルスの感染拡大により、社会や生活が大きく変わりました。また情報環境をはじめ、子どもを取り巻く状況も大きく変化しています。学校図書館担当者と情報共有や連携を強化しつつありますが、子どもたちが読書の楽しさを知り、自ら読書する意欲を育んだり、情報リテラシーを獲得したりするためには、乳幼児期から発達段階に応じて継続した取組が必要です。

これらの課題を受け、第4次図書館サービス計画では、情報提供機能の充実、子どもの発達段階に応じた継続的な読書活動支援、若い世代の利用促進、身近な図書館としての分館の蔵書整備、読書を通じた学び合いの場づくりに取り組みます。

第3章 第4次飯田市立図書館サービス計画の基本方針

読書は自己を形成し、人生を豊かにしてくれます。読書により生きる喜びと夢を育むことは、これからの飯田を支える人づくりのために大切なことです。

図書館は、生涯にわたって一人ひとりが読みたい本や知りたい情報を得て主体的に学び、自分や地域にとって大切なものを見つけ、実践することができることを目指して取り組みます。

また、この地域では、読書により学ぶこと、また自分だけでなくみんなと読み学び実践することが活発に行われてきました。仲間と一緒に自分たちの力で地域の学びや子どもたちの読書の場を作ってきました。これからも、「よむとす」を合言葉に、子どもから高齢者までが生涯を通じて読書に親しみ、生き生きと学ぶことができるよう、市民と図書館が力を合わせて読書活動を推進します。

飯田市立図書館は、次の三つを図書館サービス計画の基本方針として取り組みます。

- 一人ひとりの読書と学びを支えます。
- 読書を通じた交流やつながりを広げます。
- 地域の歴史と文化の記録を蓄積し、現在から将来にわたって地域の学びに活かします。

第4章 第4次飯田市立図書館サービス計画の具体的な取組

I 図書・資料・情報提供を充実させます

ライフステージや多様なニーズに応じた資料や情報を収集・提供し、市民の主体的な読書や課題解決を支援します。

1. 現状の評価・今後の方向性

図書館の資料提供による知る権利の保障は、市民の自由な思考と判断を生み、自立を支えます。図書館ではこれまでも、利用者からのリクエストを市民の選書として最優先しつつ、多様化するニーズに対応できるよう幅広い分野の図書購入を行ってきました。しかしながら利用の状況を見ると、この5年間では、利用者数はほぼ横這いという状況であるものの貸出冊数が減少傾向にあります。

第3次サービス計画では、利用者を増やす取組として、館外の講座等へ出かけて利用のPRや貸出を行ってきました。有効性を検討しながら継続していくとともに、図書館に来館された方の要望に丁寧に対応し資料・情報提供を行っていくことで、継続した利用や新たな利用につなげていきます。

近年は、情報が大量で複雑になっており、図書館に求められる情報も多様化、専門化しています。市民一人一人のニーズに的確にこたえる資料や情報の提供が求められています。レファレンス（調査・相談）事例を蓄積し活用することで迅速かつ確実に回答することを目指します。

また、読みたい気持ちを引き出せるような魅力ある棚づくりや本の紹介に取り組みます。

令和2年には、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、感染症対策を考慮した資料提供が必要となりました。この数年間の傾向として、全体の登録者や利用者数は大きく変わらない中で、子どもや若い世代の利用の減少や、予約して本を借りる数の増加があげられますが、コロナ禍によりさらにその傾向が加速するなど図書館利用の仕方も変わってきています。

保存スペースの確保は継続的な課題となっています。多様化するニーズに対応するためにも、各図書館の役割をふまえた分担収集と保存を進めていますが、さらなる取組が必要です。

2. 取組内容

項目	主な取り組み
資料の収集	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世代別の資料の利用状況や市民のニーズ、地域の現状や社会動向を把握します。 ■ 各館が分担して幅広い分野の資料を収集し、蔵書の充実を図ります。(重点) ■ 子育て世代の課題に対応した図書を収集します。 ■ 高齢者や字を読むことが困難な人に向けて大活字本を収集します。 ■ 若い世代の興味に対応した図書を収集します。 ■ 知的好奇心を刺激し、興味や学びを広げられるような選書を目指します ■ 気候変動や環境に関する図書や資料を収集します。 ■ 電子書籍に関する情報収集を行います。
ビジネス支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の仕事や産業から求められるニーズを把握します。 ■ 経済、商工業、技術、農林水産業などの分野の実務書を収集します。 ■ 仕事のスキルアップや課題解決に役立つ図書や資料を収集します。
資料の保存	<ul style="list-style-type: none"> ■ 飯田市全体の蔵書配置を検討し、分担保存を進めます。(重点) ■ 市民の財産として次世代に残すべき資料を選択し、適切な除籍を進めます。除籍した資料は市民へのリユースを行い、資源を有効活用します。 ■ 寄贈図書・資料は、優先順位を決めて計画的に登録や目録整備を行います。
資料の提供	<ul style="list-style-type: none"> ■ カウンターやフロアで積極的に案内を行います。 ■ 所蔵のない図書は、貸出中の本の「予約」、蔵書がない本の「リクエスト」、南信州図書館ネットワーク内所蔵資料の取り寄せ、手に入らない本を県内外の図書館から取り寄せて用意する「相互貸借」などで市民の要望に応えます。 ■ 論文資料等は、複写を取り寄せ提供します。 ■ 書棚を日常的に点検し、市民が自ら必要な本を探せる本の配置と、わかりやすい表示に取り組みます。

資料の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ■館内展示や資料展示、また他機関の企画と連携した資料紹介などにより、新たな本との出会いや、図書館の楽しさの発信を行います。 ■環境への関心を高める図書の展示や紹介を行います。
ビジネス支援	<ul style="list-style-type: none"> ■仕事や産業に関する資料リストを作成し、提供します。 ■他機関や地域の団体、企業と連携し、地域の産業や活動の紹介を行います。 ■図書館資料を活用して、仕事に役立つ講座や企画を行います。
レファレンス (調査・相談)	<ul style="list-style-type: none"> ■レファレンス事例を蓄積し活用する仕組みを作ることで、迅速かつ確実な対応を目指します。(重点) ■全国に公開されている国立国会図書館レファレンス協同データベースへの参加に向けて取り組みます。
利用に障がいのある人への取組	<ul style="list-style-type: none"> ■通常の図書の利用が困難な人へ、録音図書や大活字本を提供するとともに、利用をPRします。 ■来館できない高齢者へ本を届ける事例を収集し研究します。 ■外国語を母語とする市民へ、市内団体や学校と連携を図り、図書館利用のPRを行います。
利用PR	<ul style="list-style-type: none"> ■予約やレファレンス、相互貸借などの図書館サービスの周知を図ります ■対象を明確にした有効な利用PRを検討して取り組みます。
利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ■利用者の利便性向上のための取組を行います。
南信州図書館ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ■ネットワークの円滑な運用が行えるよう、参加自治体の会議や連絡、調整を行います。 ■コンピュータシステムの更新に向けて検討を行います。
職員の知識・技能の向上	<ul style="list-style-type: none"> ■司書のスキルアップを図る研修と、マニュアル作成を行います。

Ⅱ 子どもの読書活動を推進します

子どもたちが、読書の楽しさを体験し、知ること学ぶことの喜びを知り、自分で考える力、課題を解決する力を培うことができるよう、関係機関と連携し、発達段階に応じて継続的に読書活動の推進を行います。

1. 現状の評価・今後の方向性

子どもが心豊かに成長していくためには、幼少期から読書の楽しさや知る喜びを体感することが大切です。本を読むことにより、子どもは感性を豊かにし、想像力を広げ、深い思考力を育むことができます。また、調べることを通じて、多様な考え方に触れたり、様々な知識を得たりすることは、表現力や自分で考える力を養い、自らの人生を切り開いていく「生きる力」の獲得につながります。

しかし、市立図書館の利用の様子を見ても、本に親しんでいる家庭とそうではない家庭があることが推測されます。幼児期に本に親しむ機会が少ないと、絵本から読み物への移行が難しかったり、図書館へ来ても読む本を自分で選ぶことができなかつたりするという課題があります。また、小学校、中学校期に、調べる楽しさや方法を知る機会が得られないと、自分から情報を収集し、選択して活用する力の基礎が十分に身につかないままとなってしまいます。さらに子どもを取り巻く情報環境も大きく変化し、多様な情報にふれることができる一方で、文章の内容を的確に読み解くことが少なくなっているという指摘もあります。

子どもたちが本を読む楽しさを知り、読書習慣を形成していくためには、子どもの成長に沿って継続して読書体験を行うことが必要です。また情報を活用する力を身につけていくには、学校図書館の充実も欠かせません。そのために、保護者の理解を高め、子どもの最も身近な場所である保育所や学校図書館と連携していくことが重要です。

分館では、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け集会行事を開催できませんでしたが、子どもたちが継続的に来館して本を読むための取組が進みました。それぞれの地区の状況に合わせて子どもの読書活動推進に取り組んでいきます。

関係機関との連携をより強化し、乳幼児期から発達段階に応じて、継続的に子どもの読書活動推進に取り組めます。

2. 取組内容

発達段階に応じた子どもの読書活動の推進	
年代	主な取り組み
乳幼児 (0～3歳)	<ul style="list-style-type: none">■はじめまして絵本事業により7か月の乳児に絵本をプレゼントし、親子で絵本を楽しみ、心を通わせる時間を持つことを働きかけます。■2歳児相談の際に、親子で絵本を楽しむことを呼びかけます。■乳幼児学級やつどいの広場等で、親子で絵本やわらべうたを楽しむことを働きかけます。

幼児 (3～6歳)	<ul style="list-style-type: none"> ■絵本や物語の楽しさを知る機会を充実させます。(重点) ■4歳児(年中児)へセカンドブックをプレゼントします。(重点) ■保育所等を通じて家庭への絵本の貸出を実施し、家庭での読書習慣の定着を図ります。(重点)
小学生 (6～12歳)	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもの身近な図書館である学校図書館と連携して、学校での読書活動や調べ学習等の支援を行います。 ■学校図書館と共同で学年別におすすめの図書リストを作成し、読む力の育成と読書習慣の形成を図ります。 ■学習指導要領に応じた図書館を活用した教育活動の指導計画の共有を進めます。 ■読書記録にもなる「おはなしぼうけんたい」を活用し、継続的な図書館の利用につながる働きかけをします。
中学生 (13～15歳)	<ul style="list-style-type: none"> ■学校図書館と連携して、読書活動や調べる力・情報を活用する力を育成する取組を行います。
高校生 (16～18歳)	<ul style="list-style-type: none"> ■各校で実施されている探求活動や「信州学」について、有効な支援や連携方法を探ります。 ■学校図書館と連携して、読書活動や調べ学習等の支援を行います。 ■来館した人の欲求に確実に応えることで、図書館の利便性を伝えます。
分館による地区の子ども読書活動の推進	
	<ul style="list-style-type: none"> ■分館毎に、地域の実情にあわせた取組を実施します。 ■中央・上郷図書館・分館が連携して読書推進に取り組みます。
関係する機関との連携強化	
	<ul style="list-style-type: none"> ■保健課、子育て支援課、保育所等との連携をより深め、乳幼児への読書活動を進めます。 ■「わが家の結びタイム」の取組により家庭読書の意識啓発を行います。 ■学校図書館と連携し、定期的な連絡会や合同研修等を実施します。 ■学校図書館と協力して、小中学生の自発的な読書、調べる力の獲得に向けて取り組みます。(重点) ■団体貸出やレファレンスを支援します。
子どもの読書活動に関わる人への支援	
	<ul style="list-style-type: none"> ■読みきかせボランティア等を対象にした読みきかせの研修会を行います ■子どもの本や読書に関する講座を行います。

Ⅲ 身近に使える図書館の充実を図ります

市民誰もが身近な「わたしの図書館」をもち、いつでも気軽に本に親しみ、必要な情報を得られる環境を整えます。

1. 現状の評価・今後の方向性

飯田市立図書館は市内全域で図書館サービスを受けることができるよう中央図書館と鼎・上郷の2つの地域館、16分館1分室の図書館網を整備してきました。しかしながら中央図書館と地域館2館は市の中心部に集まっており、誰もが本に親しむことのできる環境を整えるには、各地区にある分館の充実が必要です。

平成30年度から、分館窓口での予約や読みたい本の取り寄せの呼びかけを積極的に行ったことで、分館を利用した予約本の受け取りが飛躍的に伸びました。一方で貸出利用冊数は減少しており、利用者層やニーズの把握を行い、より実態に沿った蔵書の整備とサービスを行う必要があります。

各地区の分館のはじまりは多くが、青年たちが読書により学び、その学びを生活や地域の暮らしに役立てたいという思いから青年会文庫を発足させたことによるものです。現在は図書館の全域サービスの一部になり、全館が協力してサービスを行っていますが、地区の特色をいかした読書推進を行っています。各地区に図書館分館があるという特徴を活かし、分館と地域や地区公民館の連携により、地域に根差した学びの機会提供と、地域の学び継承を支援します。

また、10代後半から20代の若い世代の図書館利用が少ないという現状があります。気軽に図書館サービスに触れられる環境を整えます。

2. 取組内容

項目	主な取り組み
分館の充実	<ul style="list-style-type: none">■地区の特色と、利用者層や利用の実態を把握して、選書や事業に活かします。(重点)■分館の周知を行い、利用の促進を図ります。■利用者の利便性向上のため、運用の見直しの検討や情報収集を行います。■中央館、地域館と連携して、予約、リクエスト、レファレンスに応えます■各分館に地元関連図書のコーナーを設置し、紹介展示等で自分の地域の郷土資料に触れる機会を増やします。■分館業務の研修を行います。■中央図書館、上郷図書館は分館の蔵書やサービスのバックアップを強化します。
地域との連携	<ul style="list-style-type: none">■地域や公民館と連携した企画を行い、地域の学びの支援を行います。
若い世代への情報発信・読書推進	<ul style="list-style-type: none">■高校生から20代の若い世代が、気軽に本に親しみ、情報を得られる場を作ります。(重点)■若い世代の興味関心を引き出し、幅広い学びにつながるような蔵書を提供します。

IV 学びあいにより人と人がつながり、読書や学びが広がる場づくりに取り組みます

市民や団体と協働して、読書を通じた学びあいにより人と人がつながり、読書や学びが広がる機会づくりに取り組みます

1. 現状の評価・今後の方向性

本を通しての交流や学びあいは、人と人とのつながりをつくり、読書の輪を広げます。かつて飯田市には読書会が多数あり、読書会や図書館を拠点とした市民の学びあいと実践が飯田市の読書文化を支えてきました。市民と図書館と一緒に学び歩んできたことが飯田市立図書館の読書活動推進の特徴です。

これまで、読書会交流会、文学連続講座、地名講座等を市民の方との協働により開催してきました。質問が活発に出されたり、人と話したりすることで学びが深まりました。また、特別資料展への展示参加や動物絵本版画展など、市民の方からの提案により主体的に運営された企画では、交流が深まり学びが広がりました。

しかし、近年は会員の高齢化等もあり、読書会の数も減少してきています。また講演会等の学びの機会については、参加するだけでは主体的な学びや実践へつながることが少ないという課題があり、学びを深め実践につなげる工夫が必要です。

市民が主体的に参加したくなる企画・運営方法を市民と一緒に考え、学びあい交流する場をつくることで読書や学びの輪を広げていきます。

2. 取組内容

項目	主な取り組み
市民協働で学びの機会提供	<ul style="list-style-type: none"> ■市民団体や他機関と連携した講座等を開催し、学びの機会をつくります。 ■主体的に参加し、交流できる企画・運営方法を検討し取り組みます。 ■読書会交流会等を行うことで、地域の読書活動を支援し、交流と学びを深められるよう取り組みます。(重点) ■市民自ら企画を行い、その成果が他の市民の学びにつながる事業を積極的に支援します。 ■市民団体の活動や研究成果の発信の場を提供します。
若い世代への学びの機会提供 (中学生・高校生・10代・20代)	<ul style="list-style-type: none"> ■若い世代が本や図書館に興味をもてるような機会をつくります。 ■参加者同士が交流することで、読書の輪が広がり新たな学びの場につながるような企画づくりを進めます。 ■「図書館司書体験」「学校図書委員との交流」「図書館資料の活用講座(新聞・辞典・データベース等)」などの企画を行います。
読書活動を支える担い手の支援・育成	<ul style="list-style-type: none"> ■地域で読書活動を行う団体や読書活動を支える担い手を支援します。 ■活字を読むことが不自由な方の読書を支えている録音図書製作ボランティアを支援・育成します。

V 地域の歴史と文化の記録を蓄積し、提供します

郷土資料を収集、保存、提供し、地域の価値を多くの市民が学び未来へつなぐことができるよう、利用の推進や情報発信を行います。

1. 現状の評価・今後の方向性

開館以来、地域の歴史・文化の記録を蓄積し、次世代へ繋いでいくために郷土資料の収集・提供・保存に継続して力を入れてきました。しかし、未整理の資料や時間とともに劣化する資料があり、継続した提供を行うための整理・登録・保存が求められます。

また、郷土資料が地域の学びや課題解決に活かされるように、特別資料展示や、講座等で図書展示・貸出、ホームページやフェイスブックによる郷土資料の情報発信を行ってきましたが、利用はまだ限られています。

市民の大切な財産である郷土資料から多くの人が地域の価値を学び、地域の価値が次世代につながるように利用の呼びかけや情報発信、また郷土資料を活用した学びの機会の提供を行います。

2. 取組内容

項目	主な取り組み
郷土資料の収集と提供	<ul style="list-style-type: none">■ 飯田市や下伊那郡に関する本・新聞・雑誌等の郷土資料は、次世代へ引き継ぐべき市民の大切な財産として、収集・保存・提供します。■ 郷土に関する雑誌記事、新聞記事、パンフレット、視聴覚資料等もできるだけ網羅的に収集し、利用しやすいように整理・登録します。■ 飯田・下伊那地域にゆかりのある人物の本や情報を収集します。■ 郷土に関する映像資料を収集します。
郷土資料の整理と保存	<ul style="list-style-type: none">■ 寄贈を含め収集した郷土資料は、優先順位を決めて整理・登録を行います。■ 地元新聞、郷土の音声資料、劣化の激しい郷土図書のデジタル化を計画的に進めます。■ 県立図書館と連携して、郷土資料アーカイブ化の検討を行います。
所蔵資料の紹介	<ul style="list-style-type: none">■ 館内展示やホームページ等により、郷土資料や貴重資料をわかりやすく紹介します。■ 地域の動きにあわせ、市民の関心の高いテーマに関する郷土資料を紹介します。■ この地域が育んできた人、産業、文化などを積極的に紹介します。■ 美術博物館、歴史研究所、公民館などの行政機関等と連携を強化し、地域を学ぶ講座等に出向いて資料紹介・出張貸出を行います。
情報発信	<ul style="list-style-type: none">■ 地域の歴史や文化に多くの人が関心をもてるように、郷土関連の展示や本の紹介をホームページや SNS 等で情報発信します。■ 図書館ホームページ上の「いいだの情報いいだの資料」を多くの人に知ってもらえるように、機会をつくって紹介していきます。また、図書リストの掲載数を増やしていきます。

VI. 安全で安心して使える施設を整えます

安全に利用できる施設であるために、保守点検と計画的な修繕を行います。

1. 現状の評価・今後の方向性

中央図書館、上郷図書館は建設年から年数が経過し、施設設備の経年劣化等による故障が増えています。継続的な保守点検と計画的な修繕を施す必要があります。

また、環境に配慮し、省エネルギー等により環境への負荷の低減に取り組みます。

2. 取組内容

項目	主な取り組み
保守点検	■定期的に保守点検を行います。
修繕及び更新	■老朽個所の計画的な修繕および更新を行います。 ■計画的に照明施設のLED化を実施します。
コロナウィルス感染症対策	■感染状況により、館内の消毒や閲覧席の配置の配慮、講座開催に対する対応を行います。

※「よむとす」は「読む」と「～せむとす」を合わせた造語。

飯田市におけるムトスの精神を活かし、市民が自ら読むことに関わる活動の推進と支援を目的とする。読書活動を積極的に進めるための合言葉とし、市民、関係機関と共に読書活動を推進する。

第4次飯田市立図書館サービス計画 取組別指標および目標値

取組	指標	現状 (R1)	目標値 (R6)	備考
1 図書・資料・情報提供を充実させます	貸出利用者数 (延べ人数) (人)	200,825	201,000	全館 (分館含む)
	予約数 (冊)	60,817	61,000	全館 (分館含む)
	レファレンス数 (件)	2,964	3,000	中央・県・上郷
2 子どもの読書活動を推進します	はじめまして絵本 【7ヶ月児】絵本プレゼント 受取割合(%)	97.7	100	絵本を受け取った人数/ 対象者数
	【4歳児】絵本プレゼント 受取割合 (%)	—	100	絵本を受け取った人数/ 対象者数
	絵本を家庭へ持ち帰っている 保育所数 (園)	19	26	保育所への団体貸出や分館貸出、保育所の蔵書を通じて定期的に家庭へ本を持ち帰っている保育所数
	日常的に読書を行っている 子どもの割合 ※ (%)	小学6年生 67.1 中学3年生 55.6	県平均 以上	全国学力・学習状況調査結果 R1 県平均 小学6年生 69.0 中学3年生 57.1
3 身近に使える図書館の充実を図ります	【分館】住民一人当たりの 貸出冊数 (冊)	1.8	1.9	分館 貸出冊数/地区人口
	16歳～29歳の貸出利用者 数 (延べ人数) (人)	10,038	10,500	中央・県・上郷
4 学び合いにより人と人がつながり、読書や学びが広がる場づくりに取り組みます	講座・企画等開催数 (件)	23	25	
	講座・企画等参加者数 (人)	1,241	1,300	
5 地域の歴史と文化の記録を蓄積し、提供します	郷土資料の情報発信数 (回)	145	150	館内外展示・リスト配布、HP本の紹介・図書リスト掲載、SNS発信
	郷土資料の貸出冊数 (冊)	6,770	6,800	

※全国学力・学習状況調査 設問「学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか(教科書、漫画を除く)」に対し、回答10分以上～2時間以上の子どもの割合

第4次 飯田市立図書館サービス計画 体系図

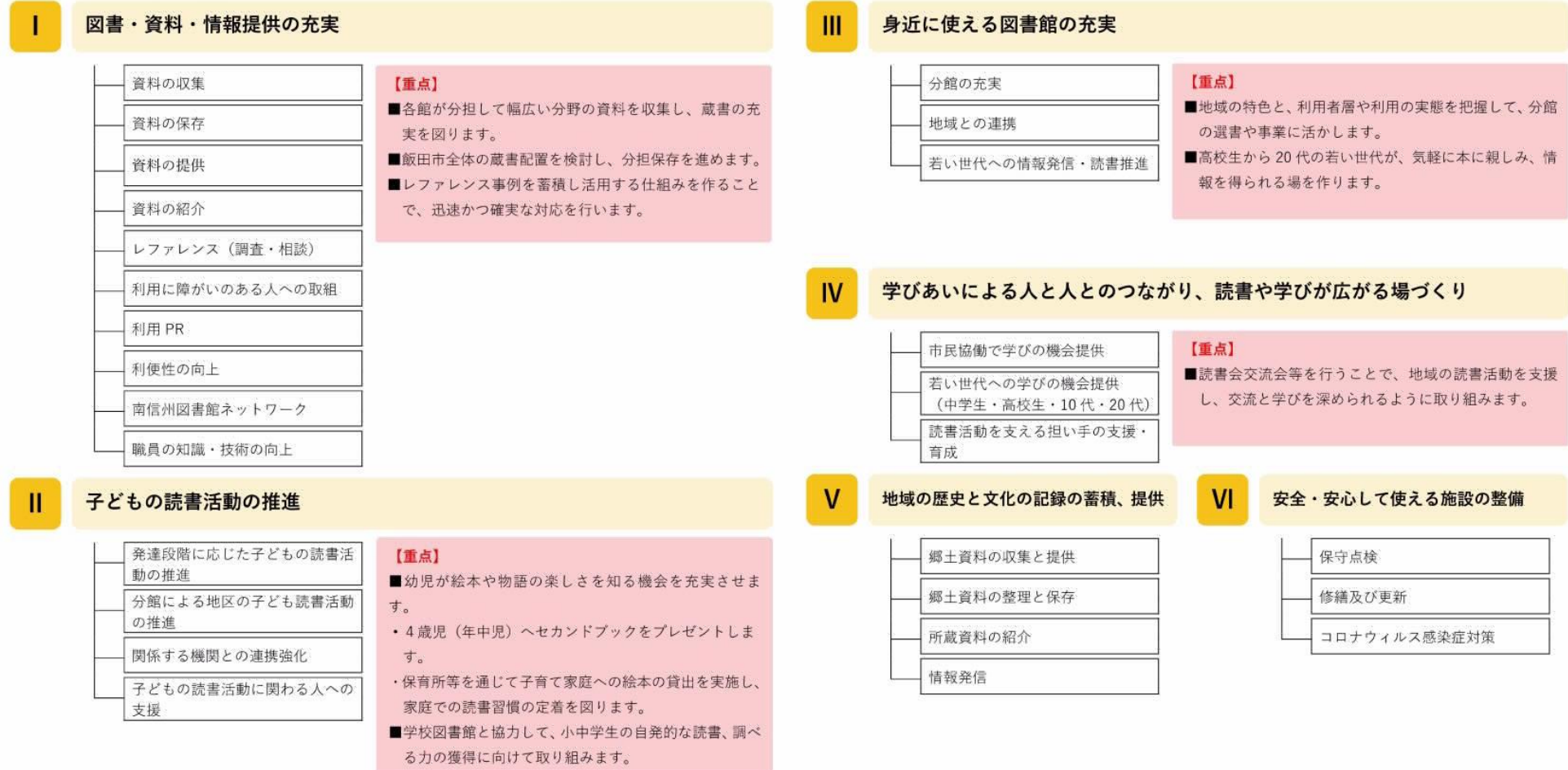
飯田市立図書館の3つの基本方針

一人ひとりの読書と学びを支えます

読書を通じた交流やつながりを広げます

地域の歴史と文化の記録を蓄積し、現在から将来にわたって地域の学びに活かします

具体的な取り組み



よむとす

「よむとす」は「読む」と「～せむとす」を合わせた造語。飯田市におけるムトスの精神を活かし、市民が自ら読むことに関わる活動の推進と支援を目的とする。読書活動を積極的に進めるための合言葉とし、市民、関係機関と共に読書活動を推進する。